

視点・論点

浚渫工事開始迫る！ストップ原子力空母母港裁判に支援を

木元茂夫

アメリカ海軍は、横須賀軍港を原子力艦船の拠点として、作り変えようとしている。横須賀軍港はいま、日々その姿を変えつつある。私達が八年の歳月をかけて反対し続けてきた二号バースの延長工事は、いま振り返れば、その出発点に過ぎなかった。

昨年一月、アメリカ海軍は、日本政府の「思いやり予算」ではなく、自らの予算を投入して、二号バースの裏山を切り崩す工事ははじめた。原子力空母に必要な純水製造プラントの建設用地を確保するために、山を削ろうというのだ。環境アセスメント法など日本の法令の手続きを回避するための強硬手段である。これと平行して、二号バースの反対側に出来た三号バースに燃料給油の配管などを設置した。三月にはいると山を削った跡の地面を掘る工事が始まった。純水製造プラントの基礎工事である。この時期、浚渫工事の入札が行われ、浚渫環境監視業務（二〇〇七年三月二十九日～二〇〇八年七月二日）は設計を担当した日本工営神奈川事業所が二〇七九万円で落札、浚渫工事本体（工期：二〇〇七年三月二十八日～二〇〇八年五月三十一日）は、五栄土木・ヤマト工業建設共同企業体が二八億二四五〇万円で落札した。

三月二日には、横須賀海軍工廠の時代から使用されてきた艦装浮き桟橋一〇―一〇号バースが撤去された。ここには、原子力空母の修理をするための台船、フラットな甲板だけの作業用の小船、クレーンなどの工用車輛などを載せて、移動して作業を行う、専用の桟橋に改造するためである。四月には三号バース直近の海底への杭打ち工事が始まった。五月には一〇―一〇号バース跡に杭打ち工事がはじまった。五月下旬、純水製造プラントの鉄骨の骨組みが出来上がった。停泊中原子炉を停止する原子力空母に電気を供給するガス発電所を建設するためのガス配管工事もはじまろうとしている。一方、四〇億円もの「思いやり予算」を投入したいくつかの艦船部品塗装工場も完成し、電子部品製造工場も急ピッチで工事が進んでいる。

このままでは、原子力空母の拠点となってしまう。そこで、住民投票条例が市議会で否決されたあと、四月六日に横須賀市を相手取って横浜地裁に国との水域占用協議に応じざるなどの裁判を提訴した。市は応じてしまったが、裁判は現在も継続中である。

七月には横浜地裁横須賀支部に、今度は国を相手取って、浚渫工事は危険だから止める、という裁判を起こすべく原告を募集している。横須賀軍港を中心に半径一六五キロメートルに居住している人ならば誰でも原告になれる。一六五キロという距離は原子力資料情報室が、横須賀で原子力艦船が事故を起こした場合のシミュレーションで、五〇ミリシーベルトという一年間でこれ以上浴びてはならない被爆量が想定される地域である。神奈川、東京、千葉はもちろん、関東全域、静岡県の一部、山梨県の南部の人たちくらいまで、原告になる権利がある。

二号バース周辺の水域は、旧日本海軍の時代からのものも含めてさまざまに重金属で汚染されている。延長工事がはじまった二〇〇〇年に崩落事故を起こし、汚染物質が撒き散らされたために、重金属汚染が原因と思われる背骨の曲がった魚が多数確認された。今回の浚渫工事は対象水域が六〇万平方メートルと、二号バースの時よりもはるかに広い。海底に、あるいは海底の岩盤に蓄積された汚染物質が撒き散らされる可能性は高い。この裁判は損害賠償請求ではなく、あくまで浚渫工事差し止めを求める裁判である。ぜひ、原告に。また、「進める会」の会員になって裁判を支えて欲しい。申込用紙は「原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会」のホームページ（<http://www.pasopit.co.jp/cvn/index.shtml>）に、「協力よろしく」。

七月一日（日）、「ストップ原子力空母母港裁判」を進める会設立集会

午後五時

場所 「ベルク横須賀」会議室（京浜急行・横須賀中央駅下車、徒歩5分）

（きもと・しげお／すべての基地にNOを、フアイト神奈川）